

インフロニア・ホールディングス
26年3月期 第3四半期アナリスト向け決算説明会
【プレゼンテーション資料】

February 10, 2026

1. 決算サマリー「期末業績予想上方修正及び増配」
2. 事業利益 期末計画値の内訳
3. FY25における株価推移・IRへの取組み
4. 配当金額とEPSの推移

1-1. 決算サマリー 「期末業績予想上方修正及び増配」

- FY25 3Qは、売上高7,686億円、事業利益663億円、EBITDA975億円、当期利益515億円
売上高・事業利益・EBITDA・当期利益においてHD設立後、**過去最高**を達成
- FY25通期計画を売上高1兆1,300億円、事業利益773億円、EBITDA1,203億円、当期利益600億円に修正。売上高・事業利益・EBITDA・当期利益・配当金額の全ての項目において**過去最高**となる見込み
(前期比 売上高 + 2,825億円、事業利益 + 288億円、EBITDA + 364億円、当期利益 + 276億円)
- 配当性向40%の還元方針に則り、**通期配当予定金額を85円から92円に修正**

	FY24 3Q実績	FY25 3Q実績	通期計画 (11月14日)	通期計画 (2月10日)
売 上 高	6,044億円	7,686億円 <small>過去最高</small>	1兆1,330億円	1兆1,300億円 <small>過去最高</small>
事 業 利 益	317億円	663億円 <small>過去最高</small>	792億円	773億円 <small>過去最高</small>
E B I T D A	579億円	975億円 <small>過去最高</small>	1,220億円	1,203億円 <small>過去最高</small>
当 期 利 益	206億円	515億円 <small>過去最高</small>	554億円	600億円 <small>過去最高</small>
配 当 額	—	—	85円 (中間30円・期末55円)	92円 (中間30円・期末62円) <small>過去最高</small>

1-2. 決算サマリー インフロニア・ホールディングスの業績数値

(億円)

	第3四半期				通期
	FY24 3Q実績	FY25 3Q実績	前年 同期比	進捗率	
売上高	6,044	7,686	1,642	68.0%	FY24 通期実績
売上総利益	794 (13.1%)	1,125 (14.6%)	331	72.4%	2/10 修正計画
一般管理費	485 (8.0%)	609 (7.9%)	123	65.8%	前期比
持分法による投資利益※1	8 (0.1 %)	147 (1.9%)	139	101.4%	
EBITDA	579 (9.6%)	975 (12.7%)	396	81.0%	
事業利益	317 (5.2%)	663 (8.6%)	346	85.8%	
その他の収益	11	11	0	—	
その他の費用	16	69	53	—	
営業利益	312 (5.2%)	605 (7.9%)	293	86.9%	
金融収益	59	215	157	—	
金融費用	38	57	19	—	
当期利益※2	206 (3.4%)	515 (6.7%)	308	85.8%	
自己資本	5,022	5,759	—	—	
ROE (普通株式)	—	—	—	—	
EPS	—	—	—	—	

※1 関連会社投資に係る売却益を含む

※2 親会社の所有者に帰属する当期利益

※数値は小数点以下を四捨五入しているため、表記数値の合計は一致しない

1-3. 決算サマリー インフロニア・ホールディングスの業績数値

セグメント	決算サマリー
インフロニア	<ul style="list-style-type: none"> FY25 3Q実績は、前年同期比で增收増益。売上高・事業利益・EBITDA・当期利益はHD設立以来過去最高となった 当期利益は、投資資産の評価益計上等により、前年同期比で308億円増加（前年同期比約2.5倍） 全従業員向けの株式給付信託（J-ESOP）の費用増加、金融資産の評価益計上等により通期計画を修正（事業利益-19億円、当期利益 + 46億円） 2月10日の通期業績予想修正に伴い、期首時点より期末配当を32円増配
建築	<ul style="list-style-type: none"> 前田建設の3Q実績は、前年同期比で增收増益。通期計画達成に向け、順調に進捗 三井住友建設の3Q実績は、前年同期比で減収増益。通期計画は達成見込み
土木	<ul style="list-style-type: none"> 前田建設の3Q実績は、前年同期比で增收増益。重点現場の工事進捗管理及び設計変更の獲得額向上により、通期計画達成を見込む 三井住友建設の3Q実績は、前年同期比で減収も利益は同水準。通期業績は、手持工事の工事進捗管理、設計変更の獲得並びに新規案件の早期着手により、計画達成を見込む
インフラ運営	<ul style="list-style-type: none"> 前田建設グループの3Q実績は、前年同期比で增收増益。愛知道路コンセッション、大阪工業用水等のコンセッション事業の堅調な進捗、菰野ヴィラ売却により、通期計画達成を見込む 日本風力開発の3Qの実績は、前年同水準。O&Mの順調な進捗により修正後の通期計画達成を見込む
舗装	<ul style="list-style-type: none"> 3Q実績は、受注時利益管理の徹底や、適切な価格転嫁により、前年同期比で增收増益 受注時利益率の確保や適切な販売価格の維持により通期計画の達成を見込む
機械	<ul style="list-style-type: none"> 3Q実績は、建機本体の受注減少や一部商品の商流変更により売上高は減収。1Qに価格改定を実施したことや生産の効率化により、売上総利益率は改善 通期計画達成に向けて、高付加価値製品の販売・レンタル強化により売上・利益の増加を図る

(参考)セグメント別 業績数値 (前年同期比)

(億円)

	FY24 3Q実績	FY25 3Q実績	前年 同期比	進捗率 (通期計画比)
売上高				
建築	6,044	7,686	1,642	68.0%
土木	2,502	3,361	859	67.4%
舗装	1,046	1,680	634	63.4%
機械	1,950	2,060	110	72.0%
インフラ 運営	MK JWD	308 180 38	280 248 38	△28 69.7% 0 70.3%
その他	20	19	△1	61.6%
売上総利益				
建築	794 (13.1%)	1,125 (14.6%)	331	72.4%
土木	228 (9.1%)	403 (12.0%)	175	77.1%
舗装	200 (19.1%)	292 (17.4%)	92	67.1%
機械	269 (13.8%)	307 (14.9%)	38	76.5%
インフラ 運営	MK JWD	67 (21.8%) 16 (8.7%) 11 (28.1%)	67 (24.1%) 45 (18.0%) 7 (17.6%)	0 29 △4 47.6%
その他	16 (28.1%)	45 (18.0%)	29	70.9%
3	11 (16.7%)	7 (17.6%)	1	47.6%
EBITDA				
建築	579 (9.6%)	975 (12.7%)	396	81.1%
土木	120 (4.8%)	270 (8.0%)	150	86.7%
舗装	132 (12.6%)	201 (12.0%)	69	71.8%
機械	229 (11.8%)	237 (11.5%)	8	77.0%
インフラ 運営	MK JWD	37 (11.9%) 54 (30.2%) △9 (△23.7%)	33 (11.9%) 80 (32.3%) △15 (△39.8%)	△4 73.8% 26 74.9% △6 107.9%
その他	15 (76.8%)	169 (883.2%)	154	101.6%
事業利益				
建築	317 (5.2%)	663 (8.6%)	346	85.8%
土木	66 (2.6%)	197 (5.9%)	131	97.4%
舗装	103 (9.9%)	160 (9.5%)	57	74.9%
機械	149 (7.7%)	154 (7.5%)	5	83.1%
インフラ 運営	MK JWD	18 (6.0%) △9 (△5.1%) △20 (△51.4%)	13 (4.6%) 13 (5.4%) △27 (△70.0%)	△5 65.0% 22 84.2% △7 91.7%
その他	8 (41.2%)	152 (795.2%)	144	92.6%

※MK：前田建設 JWD：日本風力開発 ※舗装セグメントはPPA資産の償却が加味されている ※インフラ運営セグメントのJWDはPPA資産の償却が加味されている

※数値は小数点以下を四捨五入しているため、表記数値の合計は一致しない ※FY25 2Qでセグメント変更を行ったため、前期数値・期首計画も新セグメントにて算出している

(参考)セグメント別 業績数値 (通期計画推移)

The diagram illustrates the progression of financial data through four stages:

- FY24 通期実績**: Actual financial results for the fiscal year 2024.
- FY25 期首計画①**: Initial forecast for the first quarter of fiscal year 2025.
- FY25 11/14修正計画**: Revised forecast made on November 14, 2024.
- FY25 2/10修正計画②**: Final revised forecast made on February 10, 2025.

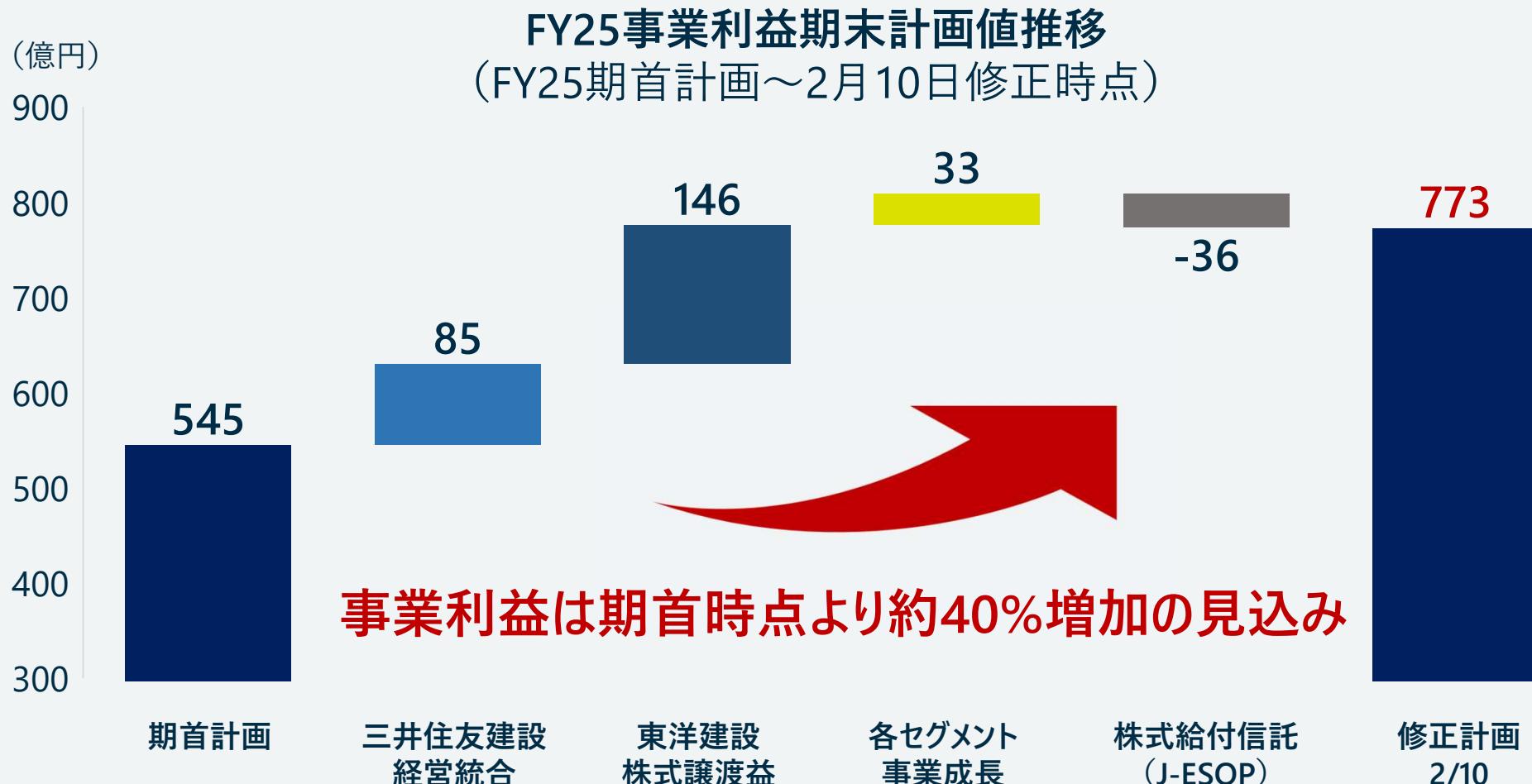
	FY24	FY25 期首計画①	FY25 11/14修正計画	FY25 2/10修正計画②	期首計画比 ②-①
売上高					
建築	3,634	3,848	5,027	4,987	2,337
土木	1,464	1,739	2,776	2,651	912
舗装	2,631	2,576	2,748	2,861	285
機械	410	401	401	401	0
インフラ	MK	307	270	293	45
運営	JWD	61	94	54	△40
その他	28	35	31	31	△4
売上総利益					
建築	1,155 (13.5%)	1,304 (14.5%)	1,578 (13.9%)	1,554 (13.8%)	250
土木	340 (9.3%)	387 (10.1%)	520 (10.3%)	523 (10.5%)	136
舗装	292 (20.0%)	312 (17.9%)	456 (16.4%)	435 (16.4%)	123
機械	368 (14.0%)	391 (15.2%)	409 (14.9%)	401 (14.0%)	10
インフラ	MK	91 (22.2%)	106 (26.4%)	106 (26.4%)	
運営	JWD	31 (10.2%)	50 (18.5%)	58 (19.8%)	
その他	27 (43.4%)	43 (45.7%)	14 (25.9%)	14 (25.9%)	
EBITDA					
建築	839 (9.8%)	918 (10.2%)	1,220 (10.8%)	1,203 (10.6%)	285
土木	186 (5.1%)	224 (5.8%)	296 (5.9%)	312 (6.3%)	88
舗装	191 (13.0%)	196 (11.2%)	300 (10.8%)	280 (10.6%)	84
機械	310 (11.8%)	299 (11.6%)	305 (11.1%)	307 (10.7%)	8
インフラ	MK	46 (11.3%)	47 (11.7%)	45 (11.2%)	△2
運営	JWD	80 (26.1%)	108 (40.0%)	107 (34.0%)	△1
その他	△2 (△2.7%)	15 (16.0%)	△14 (△26.0%)	△14 (△25.9%)	△29
事業利益					
建築	27 (93.3%)	29 (82.9%)	167 (538.7%)	166 (535.5%)	137
土木	485 (5.7%)	545 (6.1%)	792 (7.0%)	773 (6.8%)	228
舗装	114 (3.1%)	147 (3.8%)	193 (3.8%)	202 (4.1%)	55
機械	154 (10.5%)	154 (8.9%)	229 (8.2%)	214 (8.1%)	60
インフラ	MK	197 (7.5%)	192 (7.5%)	186 (6.5%)	△6
運営	JWD	22 (5.3%)	24 (6.0%)	20 (5.0%)	△4
その他	△ 4 (△1.3%)	1 (0.4%)	12 (4.1%)	16 (5.1%)	15
	△ 16 (△25.4%)	△ 1 (△1.2%)	△30 (△55.6%)	△29 (△53.7%)	△28
	18 (64.4%)	28 (80.0%)	166 (535.5%)	164 (529.0%)	136

※MK：前田建設 JWD：日本風力開発 ※舗装セグメントはPPA資産の償却が加味されている ※インフラ運営セグメントのJWDはPPA資産の償却が加味されている

※数値は小数点以下を四捨五入しているため、表記数値の合計は一致しない ※FY25 2Qでセグメント変更を行ったため、前期数値・期首計画も新セグメントにて算出している

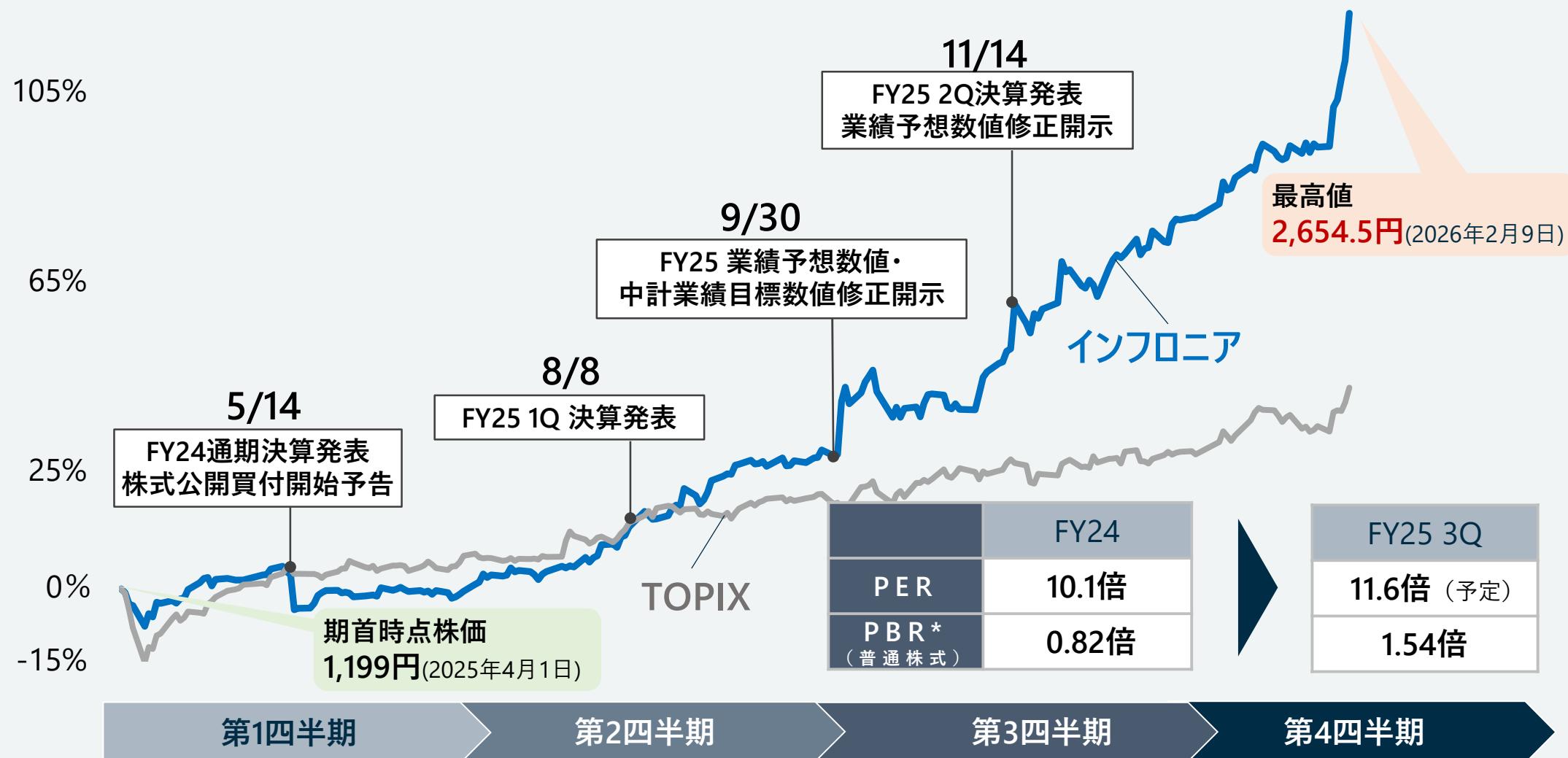
2. 事業利益 期末計画値の内訳

- FY25 事業利益の期首計画値545億円から 三井住友建設経営統合・東洋建設株式譲渡益・各セグメントの事業成長により、773億円に修正。期首時点より約40%増加する見込み
- 2023年5月にグループエンゲージメントの醸成を目的とした株式給付信託（J-ESOP）制度を導入し、一定要件を満たしたグループの全従業員に向けて株式を配布。配布株式数は当期利益に連動し、一般管理費にて費用を計上するため、当期利益の向上に合わせて追加費用が発生する



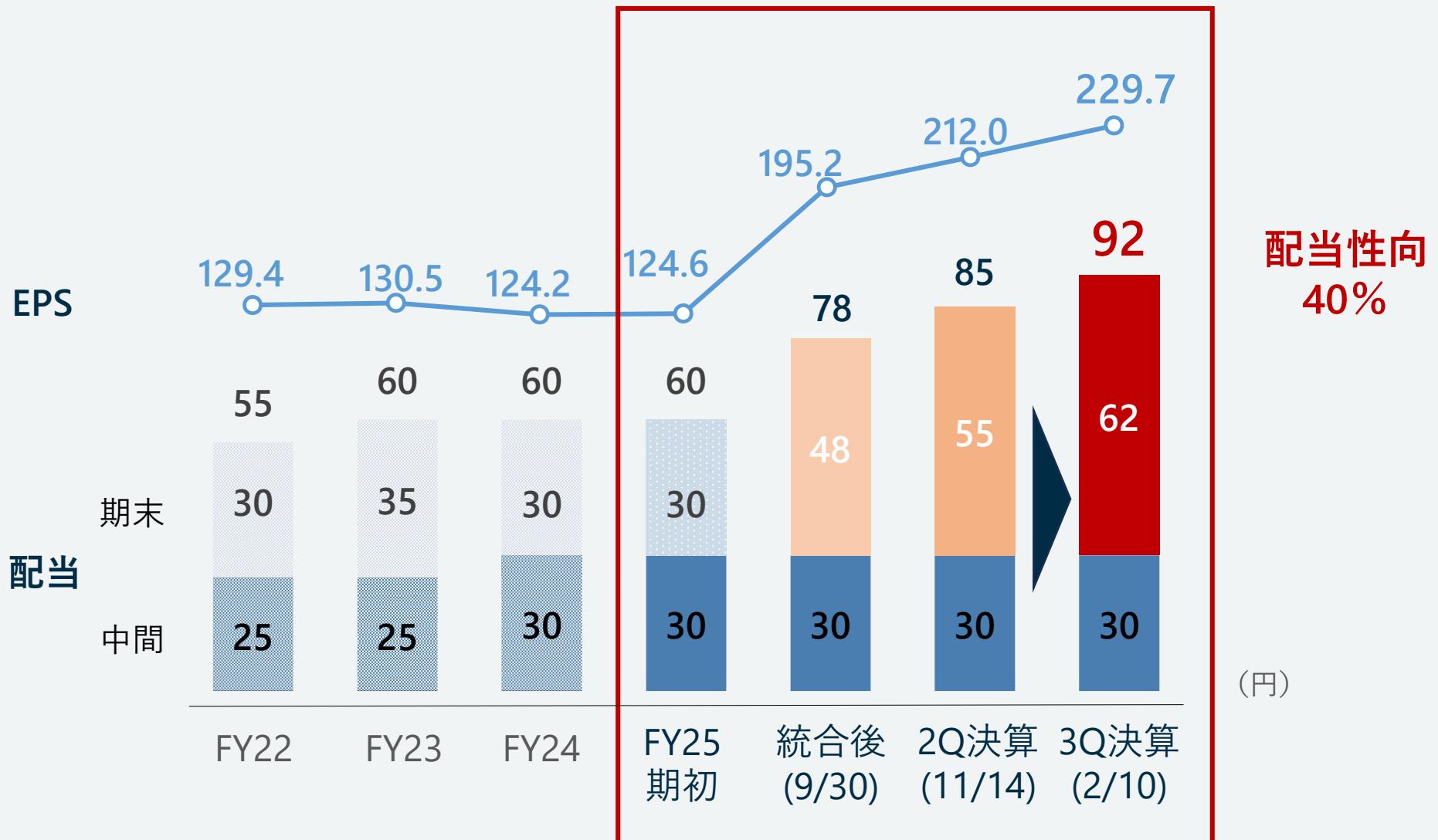
3. FY25における株価推移・IRへの取組み

- 2026年2月9日にHD設立以来の**株価最高値を更新、株価は期首時点株価から約2.2倍に向上**
- 6月・7月・10月にアジア、欧州・北米IRを実施し、海外投資家と積極的なコミュニケーションを行った
- 中期経営計画に掲げた業績目標の達成と、資本戦略に基づく株主還元方針の実行によりさらなる企業価値向上を目指す



4. 配当金額とEPSの推移

- 中期経営計画『INFRONEER Medium-term Vision 2027』の還元方針に基づき、配当性向40%以上、下限配当60円を継続。当期利益の増加予想を受け、2月10日に2Q時点の予想（年間配当金85円）から7円増配し、**当期年間配当金は92円（中間配当30円、期末配当62円）とする計画**に修正
- 2月10日時点の予想EPSは229.7円であり、期首時点の予想EPSより80%以上増加する見込み



(参考)社債型株式発行による財務指標等への影響

- 社債型種類株式は普通株式とは区別され、PBR算定時の純資産からは除く
- ROE・EPSは、優先配当分が差し引かれる為、普通株主に帰属する当期純利益は減少

(単位のないものは億円)

財務指標	算定式	FY25通期見込
ROE (普通株式)	$\frac{\text{当期純利益} - \text{優先配当}}{\text{自己資本} - \text{社債型種類株式に係る純資産}}$ <p>(※二期平均)</p>	$\frac{600 - 26^{※1}}{((5,191-968) + (5,840-968))/2} = 12.6\%$
EPS (普通株式)	$\frac{\text{当期純利益} - \text{優先配当}}{\text{発行済株式数 (普通株式)}}$	$\frac{600 - 26^{※1}}{24,987\text{万株}} = 229.7\text{円}$
PBR (普通株式・3Q時点)	$\frac{\text{時価総額 (普通株式)}}{\text{自己資本} - \text{社債型種類株式に係る純資産} - \text{優先配当} - \text{新株予約権 (CB)}^{※4}}$	$\frac{2,654.5\text{円}^{※2} \times 27,485\text{万}^{※3}}{5,759-968 - 26^{※1}-26^{※4}} = 1.54\text{倍}$
D/Eレシオ	$\frac{\text{有利子負債}}{\text{自己資本 (種類株式を含む)}}$	$\frac{5,800}{5,840} = 1.0\text{倍}$

※1 社債型種類株式配当金 26億円

※2 株価は2026.2.9終値にて算定 (2,654.5円)

※3 自己株式を含む

※4 2024年3月に発行したユーロ円建転換社債型新株予約権付社債 (グリーンCB) に関する新株予約権

【注意事項】

本資料に記載されている業績数値は、決算短信等を基にした数字を億円単位とし、四捨五入しております。このため、表示値の合計が実際の合計と一致しない場合があります。また、業績計画等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報から得られた判断に基づいており、実際の業績は、様々な要素により記載の数値とは異なる結果となる可能性があります。

インフラの未来に挑む
Challenge the status quo

 INFRONEER Holdings Inc